

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 7年 12月 15日

事業所名 Kiddy四日市あかつき

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2	職員の配置数は適切である	○			
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がい者の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		○	帰ってきてから、片付け・手洗い・宿題等を行いやすいような動線の確保ができている。 玄関前の階段には手すりを設置している。	現状、車いすの方のご利用・受け入れが設備的に困難な状態である。今後、できる限りの対策・対応を検討していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日、終業時に施設内の掃除を行い、おもちゃに関しては、消毒等を行っている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		毎月、個別支援会議を行い、全員で情報共有や支援方法の検討を行っている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		今回の保護者等向け評価表の集計をした際に、行う。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		R7.1月から開所の為、今年度より、ホームページにて公表を行う。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		どのような方・団体を第三者機関とするかを含め、今後、検討していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		施設内研修や外部研修に積極的に参加している。	
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		契約時のアセスメントの際に使用している。	

適切な支援の提供	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		月に1回の活動会議にて、活動プログラムの立案を行っている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		月に1回の活動会議にて、活動プログラムの立案を行っている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		月に1回の活動会議にて、活動プログラムの立案を行っている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		放課後は午前中・休学日は出勤～送迎の間に行っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		毎日、送迎終了後、終了業務の中で行っている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		6ヵ月に1度のモニタリング・計画の更新を行っている。	
関係	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者が自身の視点以外からも発言できるよう、事前に現場スタッフに情報を確認した上で、参画している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		過去・現在において、該当の児童がいない。	今後、医療的ケア児の受け入れに際し、Kiddy四日市あかつきで何ができるかを検討していく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		過去・現在において、該当の児童がいない。	今後、医療的ケア児の受け入れに際し、Kiddy四日市あかつきで何ができるかを検討していく。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		児童発達支援管理責任者が訪問し、情報や支援内容の共有等を行っている。	

機関や保護者との連携	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		児童発達支援管理責任者が訪問し、情報や支援内容の共有等を行っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		必要に応じて情報共有・連携を行っている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		地域のイベント参加や児童館・公園等へ遊びに行くことで、地域の子どもたちとも接点を持ったり、遊んだりすることができている。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		放課後等デイサービス事業所連絡会・児童発達支援事業所連絡会に所属し、年3回の合同研修と年1回の見交流会に参加している。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○		ペアレントトレーニングを行うことのメリット・デメリットを分析し、保護者様のご意見やご希望も聴き取り、開催するならどのような方法がKiddy四日市あかつきの保護者様に合っているかをスタッフと検討し、適切に提供できるよう熟考する。
保護者への説明責任	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時にご説明している。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		LINEや電話等で随時行っている。 ご希望に応じ、面談での相談も承っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			2月に保護者を対象とした子どもたちが実際に行っている活動を体験していただき、狙いや効果についてお話しする機会を設ける予定。 また、今後、保護者様方の不安の共有や、障害「者」となってしまうサービスの概要などの説明等により、子ども達の将来の不安軽減を図れるような茶話会等のイベントも企画する予定。

正等	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		LINEや電話等で随時行っている。 ご希望に応じ、面談での相談も承っている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		HUGにて毎日の活動を発信している。 また、LINEやHUGを利用し必要な連絡体制を構築している。	会報・機関誌については、保護者様のニーズも確認しつつ、発行を検討していく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報に関わるデータの保管は鍵付きの書棚の中に保管している。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		日常の挨拶や会話などを行い、地域の方との相互理解に努めている。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		マニュアル作成・見直し・共有・訓練等を密に行い、保護者様には契約時にご説明している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		毎月の避難訓練や定期的な委員会・研修を行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		契約時にお話を伺ったり、お薬手帳を確認する等で、把握している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		契約時に保護者様より情報提供いただき、対応している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		問題となりえる事象が起こった際、報告書を作成し、個別支援会議または終了業務時に共有している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		内部・外部の研修を積極的に行っている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		過去に契約された各保護者様へ改めて説明を行い、署名・捺印をいただいている。 今後、契約される方については、契約時にご説明していく。	